

堆肥活用
の効果

- 化学肥料使用量・経費の削減
- 土壌改良効果
- 収量向上

堆肥活
用前の
課題

- 堆肥を散布するための機械を持っていなかった
- 個人で堆肥を利用するには運搬や散布など、負担が大きい

機械等

- 自走式マニユアスプレッダ

農業者のプロフィール

組織名

石室機械利用組合

作物名

水稻

栽培面積

18.8ha

所在地

唐津市鎮西町

地域ぐるみでの堆肥散布



写真 組合員による堆肥散布

石室機械利用組合では、トラクターにつけて使用するマニユアスプレッダを所有していたが、土壌が柔らかい石室の圃場ではうまく使用できず、堆肥の活用は断念していた。しかし、近年の化学肥料高騰を受け、補助事業を活用して自走式マニユアスプレッダを導入。R6年9月に堆肥を散布し、次年産水稻の生育状況や収量をみながら、今後の施肥体系を組み立てていく。また、石室機械利用組合では組合員への機械レンタルだけでなく、オペレーターによる堆肥散布も実施している。

耕畜連携に至った経緯：
 高騰する化学肥料代を抑えるため、堆肥の導入を決めた。



使用量： 1t/10a

運搬方法：

畜産農家が圃場近くまで
 ダンプで運搬

散布方法：

マニユアスプレッダ

堆肥は3,000円/2t程度。
 堆肥の導入により、使用する
 化学肥料が減る見込み。

堆肥ニーズの年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
 水稻						 75t						

活用した耕種農家の感想



堆肥散布を見た
 農家から「自分
 の圃場にもまい
 てほしい」とい
 う声があった

畜産農家からの感想



自分が生産した
 堆肥が地域農家
 の役に立つのは
 嬉しい

今後の目標・方向

- ・堆肥の活用により、化学肥料費削減と収量向上を目指す。
- ・将来的には水稻収穫班と堆肥散布班に分けて、効率よく作業できるようにしたい。